

第207回記者懇談会

日時: 令和8年5月13日(水)18:30~20:00

会場: 日本プレスセンター 9F

緊急避妊薬-introduction

日本産婦人科医会

安達 知子



緊急避妊法 (Emergency Contraception)

避妊に失敗(コンドームなどの避妊法の不確実な使用やOCの服薬忘れなど)、あるいは、避妊措置を講じなかった性交(性的暴行なども含む)、これらを合わせたいわゆる Unprotected Sexual Intercourse: UPSI の後に緊急的に用いる手段である。通常の避妊法のように計画的に性交前(時)から妊娠を回避するものではない。最後の避妊手段である。

緊急避妊法の種類

緊急避妊法を知らない
産婦人科医も多かった
日本で緊急避妊薬として
中用量ピルは非承認

➤ いわゆるヤッペ法 (Yuzpe regimen, 1974)

中用量ピル(エチニルエストラジオール $50\mu\text{g}$ +ノルゲストレル 0.5mg 含有)

をUPSI後72時間以内に2錠、その12時間後に2錠服用

- ・中用量ピルは緊急避妊薬として承認されていない。
- ・嘔気・嘔吐の副作用大(50%以上)、**妊娠阻止率は57%と低い**

➤ 黄体ホルモン単剤

平成23(2011)年2月 日本で正式に承認
診療ガイド指針も作成、産婦人科医に周知

LNG製剤(レボノルゲストレル 0.75mg)をUPSI後72時間以内に2錠服用

→その後、LNG 1.5mg 1錠1回のみでの使用法となる。

参考: 2006年度より警察庁による性犯罪被害者に対する
医療支援事業がスタート(警察庁/都道府県警察署より、
緊急避妊、中絶手術、性感染症検査等費用を全額支給)
しかし、この時点で緊急避妊薬は未だ非承認であった。

**妊娠阻止率: LNG 0.75mg 2錠で
77%、 1.5mg 錠では84%**
(von Hertzen H, et al: Lancet, 2002)

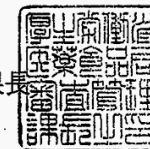
厚生労働省医薬食品局審査
管理課長よりの
「ノルレボ錠0.75mg」の
適正使用への協力依頼

薬食審査発 0304 第 1 号

平成 23 年 3 月 4 日

社団法人日本産婦人科医会会長 殿

厚生労働省医薬食品局審査管理課長



「ノルレボ錠 0.75mg」の適正使用への協力依頼について

標記医薬品は、避妊措置に失敗した場合などに、妊娠を回避するために性交後に服用する緊急避妊薬として、「緊急避妊」の効能・効果により承認したところです。

本剤の承認にあたっては、本剤がコンドームや低用量経口避妊薬等に代えて計画的な避妊に使用されないよう適正な使用を確保すべきであることから、その使用にあたり、特に下記の点について留意されるよう、貴会会員各位に対して周知いただきますよう宜しくお願いいたします。

記

1. 本剤は、避妊措置に失敗した場合などにおいて、緊急的に用いるものであり、通常の経口避妊薬のように計画的に妊娠を回避するものではないことについて特段の留意を願いたいこと。
2. 繰り返し本剤を必要とする患者には、適切な避妊法の指導を願いたいこと。
3. 医療機関及び薬局において、本剤の適切な管理を願いたいこと。

2024年度 出生数、中絶件数と中絶選択率

年齢(歳)	* 出生数A	* 中絶件数B	中絶選択率 B/(A+B) %
<15	27	159	85.5
15	72	330	82.1
16	215	961	81.7
17	528	1,519	74.2
18	1,123	2,899	72.1
19	2,293	4,976	68.5
<20	4,258	10,844	71.8
20-24	42,754	33,663	44.1
全年齢	686,061	127,992	15.7

母体保護法で人工妊娠中絶手術は妊娠22週未満までとされている。特に若年出産では、予期せぬ妊娠が多く、生まれてきた子は虐待のリスクが他の年代よりも高いことが明らかにされている。

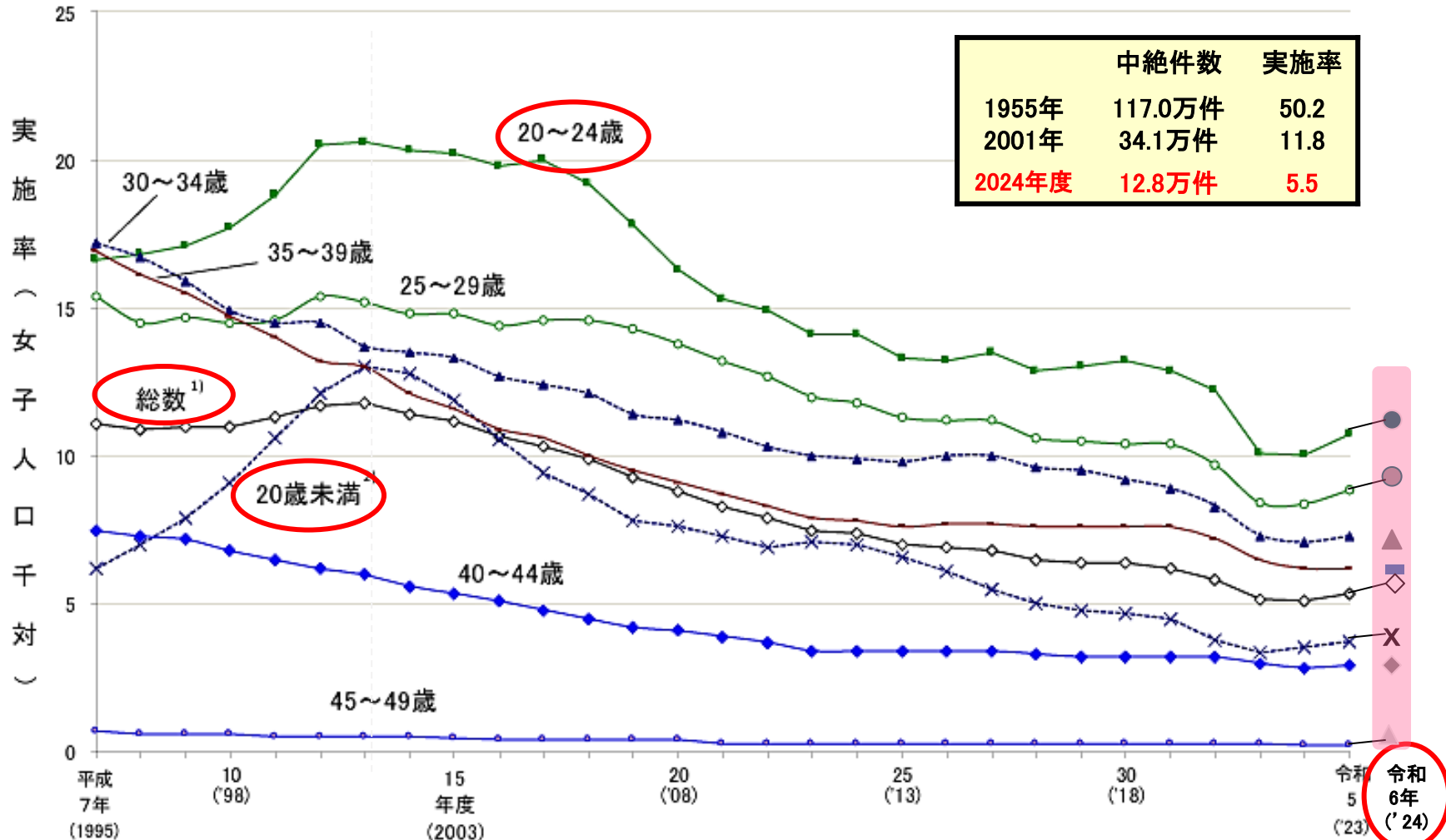
厚生労働省 2024年人口動態調査と2024年度衛生行政報告例より作成

* 16歳:6名は第二子、17歳:15名は第二子、18歳74名は第二子、2名は第三子出産

* 15歳未満内訳は、13歳未満10件、13歳39件、14歳110件、15歳330件、性交同意年齢16歳未満489件
中絶件数はこの2年間毎年若年層を中心に増加

年齢階級別人工妊娠中絶実施率の年次推移

(女子人口千対の人工妊娠中絶率 1995年～2024年度)



厚生労働省 2023年度、2024年度衛生行政報告書より (平成13年以前は年、14年からは年度の数値である)

緊急避妊薬 LNG製剤の留意事項

- すべての子どもたちは望まれて生まれてくるべきで、妊娠しても出産できない時期には確実な避妊が必要である。
- 最後の手段としての緊急避妊法は必要。その存在を知っていることは重要で、72時間以内の服薬にはアクセスの良さも大切。
- LNG製剤の安全性と妊娠阻止率は比較的高い。仮に妊娠継続しても、妊娠経過や胎児に悪影響はない。
- LNG1.5mgは通常の高用量ピル17－18錠分にあたり、月経周期は乱れやすく、また、妊娠継続も1-2%の確率で起こる。その際、正常妊娠で継続するとは限らない。
- 性交・妊娠の背景等も含め、学校の包括的性教育は必須である。